

子どもたち一人一人の「未来に向かい 未来を拓く力」育成のために

小郡市教育長 秋永

まずは、各学校において、推進員の先生方を中心に授業改善の取組を積極的に進めていただき、今日的なモデルとなる質の高い授業実践が市内で広がっていることに心から感謝申し上げます。

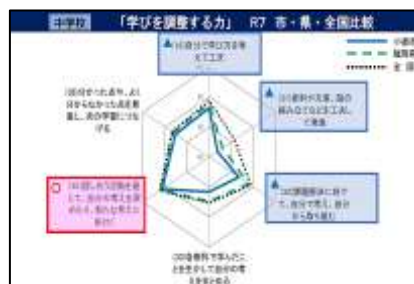
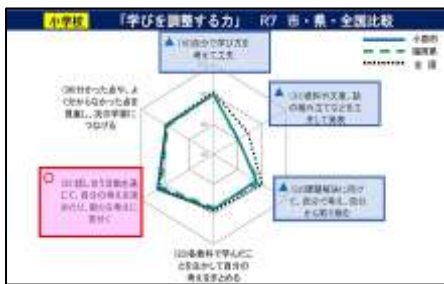
昨年度より、「学力向上推進委員会」と「ICT推進委員会」を統合して、『主体的な学び』推進委員会を新たに設置し、各学校から2名の推進委員に集まっています。その効果は大きく、2名が中軸となって連携し自校で論議を深められている様子が昨日の第1回推進委員会での熱心かつ真摯な協議の様子からも推察されました。今後の進展に期待が膨らむ研修となりました。

さて、本年度は二つのテーマを全体共有しました。一つは、『自己調整による主体的学び』の日常化を図ること。二つは、中学校区で統一した学校教育目標を踏まえ『小中9年間を一貫させた授業づくり』を進めることです。子どもたちの個性・特性・状況は様々です。学力実態の厳しい子、特別な支援を要する子、学校に行きづらさを感じている子…。どの子にとっても「自信」や「手ごたえ」を重ね、「自分らしい未来を拓く」ことにつながる授業づくりを進めていきたいと思えます。

【説明】「令和8年度の『主体的な学び』推進委員会の方向性について」 指導主事 岡嶋より

令和7年度の全国学力・学習状況調査の児童質問調査結果からは、「学びを調整する力」の「(35)話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付くことができたりしている」と感じている児童生徒の割合が高いという成果が見られました。一方で、課題として、小・中ともに、「(16)自分で学び方を考えて工夫」、「(31)資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表」、「(32)課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」といった学びに課題が見られました。

【市 HP>子育て・教育>市立小学校・中学校より DL 可能】



そこで、小郡市では、右の全体構想(詳細は市 HP 参照)の研究推進指定校をモデルとして、自己調整による『主体的・対話的で深い学び』の実現をテーマに、本市の子どもたちの『主体的な学び』の推進を図っていきます。

① 味坂小学校(研究主任より) 県重点『STEAM 教育(3年次)』の方向性

今年度は「学びの STEAM 化」を軸に3つの手立てを考えています。一つは、必然性のあるめあてから子どもの「なぜ」を生み出す第1サイクルの充実です。二つは、教師との対話を通じた子どもの丁寧な見取りです。三つは、教科で学んだ知識・技能を可視化するカード(アイテムカード)の作成です。



② のぞみが丘小学校(研究主任より) 県重点『教育課程の柔軟化(1年次)』の方向性

次の3つの柱で取り組みます。一つは、「企画委員会」を中心とした教職員のチーム運営体制の充実です。二つは、単元を通して見方・考え方を働かせるための「学びの地図」の作成と授業改善です。三つは、苦手な課題を選択して取り組むマイプラン学習を取り入れた教育課程の工夫です。



③ 三国中学校(研究主任より) 市『主体的な学び推進モデル校(2年次)の方向性

今年度は、「問いを次の学びにつなげる」ことを目指します。教科の授業では、生徒が問いを生み出せるよう「いただく・いどむ・いかす」の学習過程の充実を図ります。また、総合的な学習で、生まれた問いをもとに各教科の力で探究する場「ラボ」を設定し、地域と連携しながら発信する場を設けます。



【協議】自己調整による「主体的・対話的で深い学び」の日常化

5つの中学校区グループに分かれ、右のような協議シートを使って協議を行いました。今年度は、各中学校区における目指す子ども像を統一しているため、小・中9年間の子どもの学びの連続性を意識しながら、各中学校の自己調整に係る実態・課題・要因を基にした取組(案)を考えていきました。

【立石中校区グループの協議の様子】



《立石中校区》自己調整による「主体的・対話的で深い学び」の日常化

《立石中学校区の目指す子ども像》
◎ 問を堂し、自分で考え、自ら行動する子ども

《立石小》取組(案) ○小中一貫の学習スタイルを定着させる。 (①学び方の定着)	《立石中》取組(案) ○小中一貫の学習スタイルを定着させる。(②サクセスシート、③みどりの森ノート) ◎授業の振り返り④興味関心 ◎スクラム学習 ◎総合(小学生に発表)
《立石小》自己調整に係る実態・課題・要因 △プランニング △自己効力感	《立石中》自己調整に係る実態・課題・要因 △プランニング △自己効力感 △柔軟的方針

【立石中校区の先生方の協議後の発表より(一部抜粋)】

立石中学校区では、小・中学校ともに、子どもたちの「プランニング」(学習を始める前に計画を立てる活動)に課題があると分析しました。そこで、上のような『学習スタイルガイド』を活用して、子どもたちが「自己調整」しながら学ぶための支援を小・中一緒に検討していきます。

参加者の事後アンケートより(一部抜粋)

【宝城中校区の先生より】主体的に学びに向かうためには、子どもたちの「できた！」を増やしていき、自信をもたせ、「もっとやりたい！」という気持ちにさせることが大切だと思います。

【大原中校区の先生より】自己調整学習への教職員の理解を深め、実践につなげやすい校内研修を実施したい。また、自己理解、自己分析を促すための取組(例:定期テスト前後の計画立て、振り返りの充実等)を検討したい。

【立石中校区の先生より】まずは、自己調整による「主体的・対話的で深い学び」を軸にして、小・中で連携しながら子どもたちの力を伸ばしていきたいです。また、課題についても小・中で共通のものが多いので、小・中で常に対話しながら取り組んでいきたいです。

【小郡中校区の先生より】子どもたちが自分に合った学びを選択できるように、自分で立てためあてを振り返る活動を繰り返し行うことについて、校内研修で取り組んでいきたいです。

【三国中校区の先生より】主体的な学びを、「サキドリ研究」を活用しながら推進していきます。特に、今年度は、子どもの「問い」を引き出せるよう授業改善を進め、生徒も教員もわくわくするような学びをつくっていききたいです。

閉会挨拶(中学校 校長代表 三国中学校 米倉校長より)

自己調整による「主体的・対話的で深い学び」の日常化を実現するためには、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と、子どもたちの姿を丁寧に見取ることが求められています。そのためにも、小中連携をより深め、学びの連続性を確保することで、子どもたちが校種を超えて安心して学びを深められる環境を整えることが大切です。

先生方の日々の試行錯誤は、確実に子どもたちの未来へとつながっています。小学校と中学校が手を携えながら、ともに学びの文化を育てていきましょう。